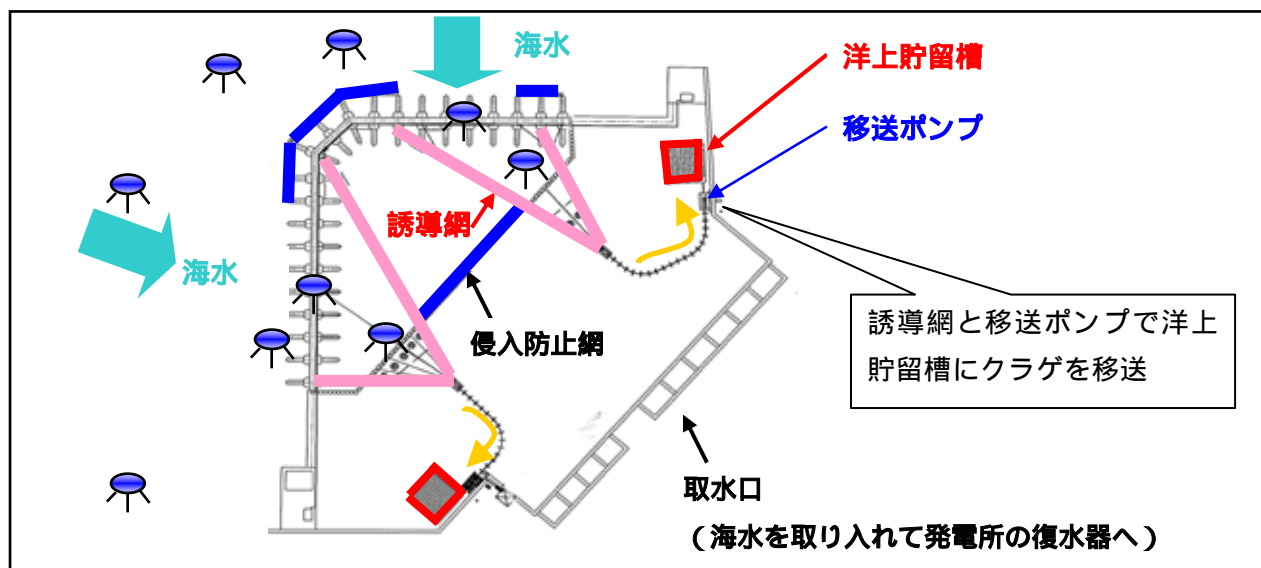


「クラゲ洋上処理システムの実用化による廃棄物の発生抑制」 の概要について（東新潟火力発電所の取り組み）

従来、発電所の取水口に流入したクラゲについては、捕集・水揚げし、廃棄物として処理していましたが、本処理システムでは、クラゲが取水口に流入する前に、専用の誘導網と移送ポンプで生きたまま、洋上に設けた貯留槽に移送します。この洋上貯留槽は、表層に還流を形成する構造としており、移送されたクラゲは、この中で一定期間滞留することで衰弱し、その後、体内の自己溶解酵素（コラゲナーゼ）などにより自然と消滅するものです。なお、クラゲは移送後約5日間で完全に消滅いたします。

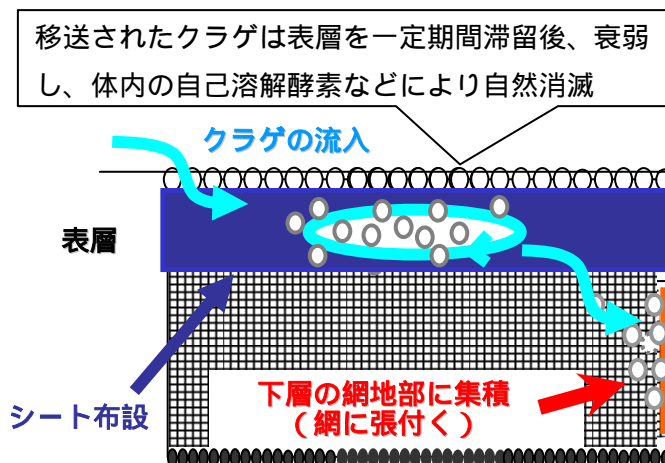
平成18年度から導入されたこのシステムにより、取水口に流入するクラゲの大部分を洋上にて処理することができるようになり、廃棄物処理量を年間約300トンから40トン程度まで大幅に抑制するとともに、発電所内にクラゲが流入することによる海水の取水障害がなくなり、発電所の安定運転にも大きな効果が得られました。



（図1）クラゲ洋上処理システム（基本構成）



（図2）クラゲ洋上処理システム（外観）



（図3）洋上貯留槽のクラゲの挙動イメージ